

【0歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	宮の下保育園
施設所在地	調布市上石原 3 - 3 4 - 1 0

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

外遊びに出られるようになると、室内とは違う手触りにたくさん出会う。生まれて初めて出会う「砂」に触れた時から「なんだろう？」を積み重ねている。園庭の砂と砂場の砂の違いにも気が付き、何度もさわったりつまんだりしながら、手から落ちる様子もよく観察している。行動範囲が広がり、園外の砂や畑の土など様々な土壌を楽しみつつ遊びの中から砂の性質への興味のきっかけになる事をねらいにした。

2. 活動した時期

（例）令和7年6月～令和8年2月ごろにかけて

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

日々の戸外活動で砂に触れる機会を意識的に設ける。なるべく様々な地面に触れる経験を得られるよう、芋ほりの時には畑に出かけて畑の土に触れる。場所で異なる砂や土があることを知らせていく。砂場遊びが安定してきたら、シャベルやカップ、水を準備し、砂の形の変化が楽しめるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

園庭にて地面を触った時「手についたね。ザラザラするね。」などと声をかける。子どもたちの表情や反応を見ながら「ちょっと痛いかな?」「いろいろな形になって面白いね」など、砂や土の変化を、視覚的、感覚的な視点から言語化していく。特に畑の土はおいをかけるように働きかけた。砂を触ることを躊躇する時には保育者が率先して触り楽しそうに一緒に遊んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めて砂が手についたときは感触に驚き、手を引っ込めた。慣れてきたら地面を払い、下のほうの性質の違う砂に気づく。「さらさらしてるね。」と違いを伝えた。砂場遊びに慣れてきたらできる限り自由に砂遊びができるように場所を確保する。繰り返しじっくりと遊ぶ機会を設けることで、砂遊びが楽しくなり道具を指さして使いたいと要求するまでになった。畑に行ったときは感触の違いに固まっていたが、保育者が手に乗せてみせると、こわごわ触り気持ちの良い手触りを楽しんでいた。途中気温低下や体調不良で思うように活動できず、久しぶりに砂遊びをしたときは嫌がっていたが、少しずつ楽しさを思い出し、砂まみれになって形の変化や手触りなどを楽しんでいる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

0歳児では、清潔にしていけないという思いが先行しがちであるが、子どもたちの安全を確保し、遊んだ後に清潔にできる準備をしておけば、積極的に戸外に出て、自然の砂に触れあう時間を作っていく事の大切さを改めて感じた。初めて触れるものに怖さを感じることが多い子どもたちだったが、継続して触れていく事で汚れることを嫌がらず、遊びこんで砂の変化を楽しめるようになっていくと感じた。。

【2歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	宮の下保育園
施設所在地	調布市上石原 3 - 3 4 - 1 0

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

二歳児は好き嫌いがはっきりしてくる時期で、イヤイヤ期も重なることで食べることを嫌がる子も出てくる。毎日の食事が楽しくできるよう興味関心を持ち、食べる意欲につなげたいと思い、テーマとして設定した。

2. 活動した時期

令和7年7月～11月にかけて

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

旬の野菜、給食に出る野菜(ピーマン、人参、大根、ごぼう、しょうが、ニンニク、なす、かぶ、アスパラなど)、食べられる葉っぱ(バジル、紫蘇、つるむらさき)珍しい野菜(バターナッツ、白ゴーヤ、紫キャベツ)など色々な野菜を用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

野菜を丸ごとの形で見せ、触ったり、匂いを嗅いだり、皮をむいたり、種を取ったり、切ったりした。また、苗植え(スプラウトブロッコリー、バジル、キャベツ)をして水や肥料(玉子の殻)を加えて育てて、食べる体験もしたり、野菜スタンプ(ピーマン、ゴーヤ、かぼちゃ)で制作もした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

毎朝の水分補給の前に、今日の野菜と言って紹介すると、子どもから「今日は何のお野菜？」と楽しみにしてくれるようになった。ピーマンやゴーヤの種取りはもっとやりたいという子がいて料理が好きになり家庭でもやるようになった子がいた。給食には何の野菜が入っているかよく見るようになり、野菜を食べられるようになった子が増えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

2歳児でも食材に触ったり皮をむいたりする料理の下準備作業をすると、とても楽しめて、料理の好きな子が多かった。給食の味噌汁に入っていたカブの葉っぱに気付いた子もいてよく見ていて驚いた。調理される前の野菜を見たり触れたり育てることで興味関心がとても高まり、食べてみようという意欲が育ち、子どもから、「前は嫌いだったけどお野菜が好きになった。食べられるようになったよ。」という言葉が出て効果を実感した。

【3歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	宮の下保育園
施設所在地	調布市上石原3丁目34番地10号

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ダンゴムシの成長を観察してみよう！

<テーマの設定理由>

身近な生き物であるダンゴムシに親しみ観察する活動を通して、自然への興味・関心を高めるとともに、主体的に考える力や命を大切にする心を育むことをねらいとして、本テーマを設定した。また、一連の活動をグループでおこなうことで思いや感じたことを共有できる仲間づくりをしていく。

2. 活動した時期

令和7年5月・6月・10月11月の計7回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ダンゴムシの生息場所を事前に確認し、ダンゴムシを観察しやすい環境を整えた。ルーペや観察ケース、図鑑などを準備し、子どもが安全に主体的に取り組めるよう配慮した。また、約束事の確認や手洗いの徹底を行い、心して活動できる環境づくりを行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

散歩先でダンゴムシを探し、捕まえて観察した。えさを買いにいき、好き嫌いはあるのか、食べ物によって変化があるのか、どうやって赤ちゃんができるのかなど、友だちと発見を共有しながら学びを深めた。飼育中に死んでしまったダンゴムシがいたときにはお墓を作り祈るとともに、話し合いを重ね、次の飼育のヒントにできるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「茶色い葉っぱが一番おいしいのかな?」「さつまいもを食べた後はうんちが白い!」「これはお父さん?お母さん?仲良しだね」「好きな食べ物はあるのかな?」と友だち同士で教え合ったり、順番を守ったりする姿も見られ、保育者の声かけを通して安心して活動に取り組んでいた。また、自分たちの知りたい内容は、図鑑で探し疑問を解消する姿が見られるなど積極的に取り組むことができた。活動を通して、自然への興味・関心を高めるとともに、友だちと協力する姿や、命を大切にしようとする気持ちが育まれている様子が見ええた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

子どもたちが身近な生き物に強い関心を持ち、自ら見つけ、考え、伝えようとする姿が多く見られたことに気づいた。また、友だちと発見を共有したり、苦手な子を気遣ったりする姿から、活動を通して思いやりや協同性が育まれていることを実感した。保育者の声かけによって子どもの気づきがさらに深まる場面も多く、今後は一人ひとりのつぶやきや興味を丁寧に受け止め、主体的な学びにつなげていく関わりを大切にしていきたい。